

アウトプット訓練のためのシミュレーション教材の学習効果について
○山下 裕己¹, 大津 史子¹, 後藤 伸之¹(¹名城大薬)

【目的】本学では、薬物治療を評価し、考案できるようになるために、疾患別症例をもとに薬学の基礎から臨床までを統合した「薬物治療学(4年生:PBL形式)」を実施している。しかし、学生から実務実習において、学んだ知識の効果的なアウトプットの方法が分からないとの声があった。そこで動画を利用したアウトプット訓練のためのシミュレーションプログラム(e-Pharmaceutical Decision Exercise: e-PDE)を開発し、平成24年度から、「薬物治療学」の自己学習教材として導入した。今回、e-PDEの学習効果を明らかにすることを目的に、学生の自己評価をもとに検討した。

【方法】学生は薬物治療学の各症例終了後に、その症例に関連する e-PDE を自己学習した。すべての症例の学習後、学生の自己評価アンケートを実施している。e-PDE の効果については選択形式で、e-PDE の感想、改善点については自由記述形式で調査した。自由記述については、KJ 法を用いて分類し、内容を評価した。また、学んだ内容の達成度を自己評価した。その中の「ケアプラン立案」の達成度に注目し、e-PDE を実施していない前年度の達成度と比較した。

【結果】e-PDE が薬物治療の理解と復習に効果的と答えた学生は 222 名(91.4%)であった。また、e-PDE に対しての自由記述の意見は 202 名から得られ、総数は 329 件であった。自由記述の内容を KJ 法で分類した結果、感想では「実践的であった」、「モチベーションが上がる」、「復習面で有用であった」などの意見が多かった。また、自己評価の「ケアプラン立案」の達成度は、e-PDE を実施していない昨年度の達成度より高かった。

【考察】以上の結果より、e-PDE を利用したアウトプット訓練は薬物治療を主体的に考え、ケアプランを立案する能力を養う上で、有用であると考えられた。